

レルフはカメラをぶら下げ、スケッチブックを小脇に抱えてひたすら歩き、時には車窓から「ウォッチング」する。「景観に関する最も優れた情報源は景観そのもの」であり、だからこそ彼は細かく「ウォッチング」していく。景観は、「目に見えない時代精神のイメージを偶然に映し出している鏡」ではなく、「世界のしくみや世界を改良する方法について確固たる思想と信念に基づいて形成される」ものである。「きわめて人間的なものであり、人間の意思を表現しており、深層の奥深くには意味がこめられている」のだ。この景観に対する考え方は前著『場所の現象学』において展開された「景観は、文化的な態度と活動とを表現したそれを規定するものである」という論を踏襲するものだ。本書では、訳者あとがきにもあるように、①建築物②技術革新③都市計画④社会変化（電気通信システムに媒介された社会出現）の四つの特徴を視点として景観に迫る。そしてレルフが被写体とする都市（都市景観）は本書のサブタイトルにもあるようにモダニズムの時代からポストモダニズムの時代のそれである。都市という舞台上で展開される二つの様式や思想の重なり、あるいはいずれにスポットがあたる。レルフは前著で「景観はその自然のおよび人工的な特徴と、それを経験する者にとっての意味との、特定の結合状態から生じる特質を常にもっている」と述べているが、この結合状態を招き寄せる方法が「ウォッチング」に他ならない。「ウォッチング」は景観の表層をなめる作業ではなく、景観がつけられた社会背景やその背後にある精神を探っていこうとする、景観に向き合うという経験を軸に、経済的・社会的そして政治的諸関係の幾重にも重なる層を縦断し、横断する作業なのだ。

さて、読後にどうしても引っかかる点についてふれておきたい。一つは、景観と向き合う際の観察者の立場の問題である。たとえば第12章結論の部分で、景観の不連続を画す線は建築様式の違いだけではなく、社会的・文化的な境界の印でもあることを述べている。実際の景観から読みとれる社会断絶として、大学キャンパスと全米一貧困な公営住宅との位置関係が写真を含めて記述されている。レルフは二つの敷地は街路をはさんで世界が分離されており、「一本の道路を渡ることは、富裕から貧困へ、希望から絶望へ、環境の管理法を教育する場所からそれが実践されている場所

へ」と社会的隔たりを渡ることには他ならないとしている。しかし、これはあくまで大学キャンパスサイドのレルフの経験あるいは見方にすぎないのではないか。直接的な経験や自己の記述の重要性を説く時、レルフがハイ・ソサイサティーに属す、健常で家族を有する白人男性であるという立場表明は不必要なのであろうか。今一つは前述したことにも関わる。貧困が開発事業や建物に隠蔽され、快適なイメージによって社会的・経済的不平等が視界から消されたとしているが、見えない存在として位置づけられている人々にとっても、景観は同様に捉えられるのかという問題である。この件についてぜひともレルフの説を読んでみたいところである。

本書の読み方としては、訳者あとがきからスタートすることをお勧めしたい。全体の構成、読む際のポイント、そして各章の内容がコンパクトにわかりやすくまとめてあり、レルフを熟知した訳者の尽力の賜物といえる。最後に都市計画者という立場からレルフと同時代の都市を題材とした、J. バネットの『都市デザイン【野望と誤算】』を並行して読むと、レルフのオリジナリティがより鮮明になることを付け加えておきたい。

文献：

エドワード・レルフ『場所の現象学』高野岳彦・阿部隆・石山美也子訳、筑摩書房、1991年

ジョナサン・バネット『都市デザイン【野望と誤算】』兼田敏之訳、鹿島出版会、2000年

[西 律子]

SAWADA, Kayoko (trans.)

ONE LUMP OR TWO AND OTHER JAPANESE TALES

（関敬吾編『日本のむかしばなし』岩波文庫、より8話を英訳したもの。自費出版。B5版、頒布価格1,000円。1994年、1,000部印刷。1998年、500部増刷）

SAWADA, Kayoko (trans.)

TOKIYORI

（高山樗牛著『滝口入道』岩波文庫、を英訳したもの。自費出版。A5版、頒布価格600円。1999年10月発行以来、計400部印刷）

飛び降りた清水の舞台と夢の実現

上記2冊の自費出版物を、翻訳者自ら紹介させていただきます。両作品とも、自分が利用する教材として英訳し、英会話学校で使用した結果、一般の方にも読んでいただけるようにと出版物としました。出版に際して決断は、“ONE LUMP～”では、清水の舞台から飛び降りる心境で、また“TOKIYORI”では、夢の実現に向けて心の準備をした上でのことでした。英会話学校のサム先生が「本になるよ」と言って下さったことに後押しされた決断が、思わぬ展開になったのです。

まず、“ONE LUMP～”を自費出版しただけでなく、丸善などの書店で販売していただけることになりました。さらには海外からも注文がくるといふ、思いがけなくも嬉しい展開となったのです。平成10年に自費で増刷した分も完売間近(残6冊)という状況です。日本の代表的な昔話を、海外の方が親しめるよう、わかりやすく翻訳したつもりです。

次に、“TOKIYORI”は平成11年10月に発行し、販売中です。『滝口入道』の流麗で美しい文章を英訳してみたいという願望に取り付かれ、翻訳したものです。英会話学校では、童話の次に、これを教材としました。この武士の物語には、日本文化のエッセンスが詰まっています。欧米人の先生方が非常に関心を示されたことが、出版への意欲に火を点けました。原作の愛読者が国内外に増えることを願いつつ、翻訳本にしました。

これらの本が出来るまでには、様々な皆さんの協力がありました。下田印刷所による、丁寧かつ廉価な小部数印刷のお陰で、これらの本を安い価格で販売でき、赤字が減りました。また、渡辺真木さんは、膨大な時間を割いて、手書き原稿をワープロに入力して下さいました。そして、テニス仲間の河野みち子さんは、私の本のために素晴らしい挿絵を描いてくれました。

私の翻訳本を読んで下さった、ある外国人の方からいただいた賛辞は、人生無上の喜びになっています。わずかでも、国際交流に役立てば、という心境です。ですから、売り上げの一部をユニセフに寄付することにしました。“ONE LUMP～”は売り上げの半分を、“TOKIYORI”は売り上げの8.3%を寄付しています。

私は、趣味として、心の支えとして英語に関わりつづけてきました。そして、翻訳を通じて、心

の“解放”という最高の幸せを得ました。私の思いが詰まった、この2冊をお読みいただければ幸いです。

*なお、購入を希望される方は、沢田までご連絡下さい。〒189-0026 東村山市多摩湖町4-22-11、電話・FAX 042-393-9865

[沢田カヨ子]

『大正・昭和 琉球諸島地形図集成』

柏書房、1999年、70,000円、B2版、総65頁
〔『解題』付き〕

柏書房発行の地形図集成シリーズの最新版。この集成は、お茶の水女子大学地理学教室所蔵の戦前の琉球諸島地形図を、一般に活用してもらうため、印刷、出版された。お茶大地理学教室には、琉球諸島だけでなく、戦前の台湾、満州、中国大陸などの、いわゆる外邦図が所蔵されている。これらは、浅井辰郎元教授のご努力、ご苦勞により収集、購入されたものである。その内容や経緯、またその意義については、すでに浅井先生が簡潔に紹介されている(浅井 1972、1999)ので、ここでは簡単な紹介にとどめたい。

本書に収録された琉球諸島地形図は、大正から昭和初期にかけて、旧日本陸軍参謀本部陸地測量部により、測量、作成された。これらの地形図は、戦中、軍事的な理由により「極秘」扱いされ、一般の目に触れることがなかった。また、戦後は、その多くが処分され、あるいは散逸したため、現存する地形図は非常に少ないようである。

さて、収録図は、琉球諸島の5万分の1および2万5千分の1地形図など、合計58葉ある。まず、全体図として、沖縄本島とその周辺、宮古列島、八重山列島、さらには、尖閣諸島がある。次に、5万分の1地形図としては、沖縄島とその周辺(与論島、那覇、久米島など)、魚釣島、宮古島、石垣島などがある。そして、2万5千分の1地形図としては、沖縄本島南部がある。これらの地形図は、かつての、この地域の姿をよく伝える貴重な資料である。この地形図群を眺めれば、様々なことが発見でき、興味が尽きない。特に、現在の沖縄本島は、第二次世界大戦末期の激しい戦火と戦後の大規模な地形改変により、戦前とはまったく異なる景観となっているため、これらの地形図